広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	訳詩ノート１　ゾイ・カレリ「人間（おんな）」
Author(s)	佐藤，りえこ
Citation	プロピレア , 23 : 101 - 110
Issue Date	2017-08-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00044340
Right	Copyright (c) 2017 日本ギリシア語ギリシア文学会
Relation	

研究ノート

訳詩ノート１

ゾイ・カレリ「人間（おんな）」

佐藤　りえこ

1.「訳詩ノート」について

現代ギリシャ詩は古典ギリシア文学と比べると日本に紹介された作品の数は心細くなるほど僅かです。それでもノーベル文学賞を受賞したヨルゴス・セフェリス Γιώργος Σεφέρης とオディッセアス・エリティス Οδυσσέας Ελύτης の二人の詩人を始め、コンスタンディノス・カヴァフィス Κωνσταντίνος Καβάφης やコスティス・パラマス Κωστής Παλαμάς、ヤニス・リツッオス Γιάννης Ρίτσος など男性詩人の作品は全詩集・詩選集が出版されており、日本語で読むことができます[1)]。

ずいぶん前にヨーロッパの女性詩人の詞華集を編むので現代ギリシャの詩人を担当するようにとの依頼をうけて何人かの作品を集中して読んだことがあります[2)]。執筆者一人につき紹介する詩人は「ひとり」という厳しい条件があったため、選考にずいぶん手間どりました。せっかく紹介する詩人が決まっても、いざ翻訳してみると（訳者の力不足のせいで）日本語では作品の魅力が十分に伝えられないために翻訳を諦めてしまったものもありました。

この詞華集に入らなかった作品や折々に訳しためていた作品を読みなおして日本語にしたいという長年の思いがありました。それで「訳詩ノート」と題して何回か現代ギリシャの女性詩人とその作品を取り上げていきます。幸い現代ギリシャ詩の裾野は広く男性陣に遅れはしたものの女性陣の作品もギリシャ国内外で高く評価されるようになりました。優れた訳詩集や詩論がぞくぞくと各国で出版されています。「訳詩ノート」ではこうした先達の訳業や研究を参照しながら、詩人

の略歴や作風を紹介したあと、翻訳や詩の解釈に関するさまざまな問題を考察し、訳出を試みます。

2. 詩人ゾイ・カレリ Ζωή Καρέλλη について

ゾイ・カレリ Ζωή Καρέλλη (1901-1997) はギリシャ北部の都市テッサロニキの出身で当時の上流家庭の習わしとして外国語や絵画、舞踊などの芸術的な教育を受けました。弟のニコス＝ガヴリイル・ペンジキス Νίκος-Γαβριήλ Πεντζίκης (1908-1993) も小説家、画家として活躍しました。カレリは詩や小説、評論、戯曲の分野で多くの著作を残したほか､T.S.エリオットをはじめとする外国文学の優れた翻訳者でもあります。

詩に限って見てみると処女詩集『歩み』*Πορεία*(1940) から『日記』*Ἡμερολόγιο* (1955-1973)まで十二の詩集を出版しています。このうち詩集『カッサンドラ』*Κασσάνδρα* (1956)が国家文学賞を受賞しています。カレリの詩には人間の実存に対する問いが随所に見られます。人生の絶望的な窮境にあって救いの訪れを信じ奮闘する人間の姿が描かれています。また女性の在り方を模索した作品も多くギリシャの詩壇で初めてフェミニズム的な詩調の作品を書いた詩人と評されています [3)]。今回は「フェミニスト詩」と評されるカレリの代表的な作品 *Ἡ Ἄνθρωπος* [4)]を取り上げます。

3. 翻訳のポイント

3.1 定冠詞 ἡ

この詩でとくに日本語に訳しづらいところは題名にもなっている *Ἡ Ἄνθρωπος* です。定冠詞の女性形 **ἡ** を男性名詞 ἄνθρωπος につけるのは文法上の性の不一致で非文です。しかし敢えて **ἡ** を男性名詞に用いたカレリの意図を探ることは作品のテーマを考察することでもあるために避けては通れません。

ἡ ἄνθρωπος が出てくるのは、題名と冒頭、それに最後の行の三か所です。ここでは文法上の性の区別がない英語の翻訳を取り上げます [5)]。ギリシャ詩の翻訳で先駆者として挙げられるキモン・フライア Kimon Friar と、古典から現代までのギリシャ文学を精力的に研究し積極的に翻訳しているカレン・ヴァン・ダイク Karen Van Dyck の英訳を見てい

きましょう[6]。まず ἡ ἄνθρωπος に該当する部分（翻訳では下線の部分）を引用します[7]。

・題名：*Ἡ Ἄνθρωπος*[8]

フライア訳：*MAN, FEMININE GENDER*

ヴァン・ダイク訳：*Woman Man*

・1 行目：Ἐγὼ γυναίκα, ἡ ἄνθρωπος

フライア訳：I, woman, "man" in the feminine gender

ヴァン・ダイク訳：I, a woman man

・最後の行：Ἐγὼ, ἡ ἄνθρωπος

フライア訳：I, "man" in the feminine gender

ヴァン・ダイク訳：a human being

フライアは引用符つきの man に前置詞句 in the feminine gender を並置することで man が「文法的／生物学的に女性」であることを説明しています。ギリシャ語の定冠詞 **ἡ** を男性名詞につけることで ἄνθρωπος が「女性」性を有する範疇に入るものであることが翻訳でも読み取れます。原詩に比べると翻訳の語句の方が長くなっているきらいはありますが、非文法的な語句を用いる詩人の狙いをできるだけ客観的に言い換えた訳だと言えます。また前置詞句の feminine はこの作品がいわゆる「フェミニスト詩」であることを仄めかす役割も担っています。読み手は feminine の一語に敏感に反応しフェミニズムの文脈で詩を読み進めていきます。feminine によってフェミニズム的な詩人の視座が一気に訳詩の表面に浮かび上がってきます。ἡ ἄνθρωπος の訳語に feminine を用いたフライアの狙いが見えてくるようです。

一方、ヴァン・ダイクの訳は簡明で直截な訳だという印象を読者に与えます。ἡ ἄνθρωπος に対して man の前に「女の」を意味する a woman を置いただけの語句で原詩の簡潔さを見事に再現しています。ギリシャ語の定冠詞 **ἡ** の文法的な機能を説明するフライアの訳にはない潔さがヴァン・ダイクの訳には感じられます。

3.2　婚礼のイメージ/人類創造のイメージ

フライアとヴァン・ダイクの英訳には大きく異なる部分があります。それは作品の中ごろに出てくる引用部分です。まず原詩の引用部分を読んでみましょう。なおテキストの下線と訳は筆者によるものです。

Ὅτι διὰ σοῦ ἁρμόζεται / γυνὴ τῷ ἀνδρί. [9)]

「あなたによって妻は夫と結婚するのですから」

この部分は「結婚は神によって成される」というキリスト教の結婚観が述べられている「箴言」第 19 章 14 節からの引用だとみられます [10)]。

（下線の部分がカレリの引用部分に該当する箇所）

οἶκον καὶ ὕπαρξιν μερίζουσιν πατέρες παισίν, <u>παρὰ δὲ θεοῦ ἁρμόζεται γυνὴ ἀνδρί</u>[11)]

「家と財産は父祖が子たちに分け与えるが、<u>妻は神によって夫と結婚する</u>」

ἁρμόζεται は ἁρμόζω「合わせる、組み合わせる、結婚させる」の中・受動態の形で述部に用いられるときは「結婚する」という意味になります。ちなみに現代ギリシャ語では ἁρμόζω は能動態で「適合する、そぐう、フィットする」という意味で用いられます。次にフライアとヴァン・ダイクの英訳を比べてみましょう。

フライア：

Because it is through Thee / that man and woman <u>find their concord</u>[12)]

ヴァン・ダイク：

<u>Because God made woman / in the image of man</u>

フライアは訳注で、この部分は「ギリシャ正教の婚礼の儀式から」であると簡単な解説をしています。訳文にある *find their concord*（下線部）「（男／夫と女／妻は）彼らの一致をみる」という部分は原詩の *ἁρμόζεται* を言い換えたところで、「神による調和」=結婚を暗示しています。訳文は構文こそ原詩と異なりますがイメージは原詩のままです。

これに対して、ヴァン・ダイクの訳は明らかに意訳で、旧約聖書の人類創造の部分（「創世記」第 1 章 27 節）を思い出させます。

<u>So God created man in his own image</u>, in the image of God created he him; male and female created he them.

「それで神は自分の似姿に人を創造した、神の姿に彼を造った；男と女を造った」[13)]

さらに人類創造のイメージ（訳詩および聖書の下線部）はカレリの詩に出てくる「顔」のモチーフにつながっていきます。詩の始めを読んでみましょう。

ζητοῦσα τὸ πρόσωπό Σου πάντοτε, / ἦταν ὡς[14)] τώρα τοῦ ἀνδρὸς

「いつもあなたの顔を探していました、/　今までそれは男のものでした」

原詩の引用部分を大胆にもキリスト教における婚姻から人類創造に差し替えたのは、「人の顔」が「神・男のものである顔」（下線部）であったのは「人が神に似せて造られた」からだとヴァン・ダイクが解釈しているためだということがわかります。

3.3　γυναίκα / γυνή の訳出

ここでもう一度、カレリの詩の冒頭を検討したいと思います。3.1 に挙げた英訳ではフライアが一行目で γυναίκα を woman と訳しているのに対しヴァン・ダイクは訳出していません。定冠詞 **ἡ** に a woman をあてて ἡ ἄνθρωπος を a woman man とかなりインパクトのある語句に訳したため、γυναίκα（この訳語の候補も woman）のほうは重複を避けて訳さなかったと考えるのが自然でしょう。

しかし、先に指摘したヴァン・ダイクの創作ともとれる意訳―結婚から人類創造へのイメージの転換―と γυναίκα/γυνή を訳さないことには通じ合う翻訳の意図があると思われます。γυναίκα/γυνή に「女」と「妻」の二つの意味があることも考慮するとフライアは γυναίκα/γυνή に「妻」ではなく woman「女」を採用したのに対してヴァン・ダイクは「妻」も「女」もこの部分には適さないと見なしたのではないでしょうか。

ヴァン・ダイクの訳にはもう一か所、原詩と比べると些細な違いですが見過ごせない意訳があります。それは ἡ ἄνθρωπος が繰り返される最後の部分です。フライアは原詩に倣って冒頭と最後の行とで同じ語句を繰り返し用いていますが、ヴァン・ダイクは原詩にはない語句 a human being を新たに採用しています。さらに、冒頭では訳した ἐγώ「私」

が最後の行では省かれています。以下にカレリの詩とヴァン・ダイクの訳を冒頭➡最後の行の順で並べて比較してみましょう。

Ἐγὼ γυναίκα, ἡ ἄνθρωπος ➡ Ἐγὼ, ἡ ἄνθρωπος
「私　女、女性性の人間」→「私、女性性の人間」
I, a woman man ➡ a human being
「私、女性性の人間」→「人間的存在」

冒頭で語り手の ἐγώ「私」は γυναίκα「女／妻」、ἡ ἄνθρωπος「女性性の人間」であるのに対して、訳詩において語り手は女でも妻でもない I「私」で a woman man「女性性の人間」です。そしてヴァン・ダイクの語り手 I「私」は「自分の顔」「自分の言葉」「自分の光」を求めて苦悩、煩悶した末についに a human being「人間的存在」を獲得するにいたります。語り手 I「私」が最終的に獲得するのはフライアの訳にある“”つきの「人間」("man")ではなく一個の人間的な「存在」なのです。ヴァン・ダイクは実在論的な自立を希求し自己を確立する過程を描き出すという原詩のテーマに「女」や「妻」といった外的な評価や位置づけはふさわしくないとみなし慎重にこれらを訳から排除したと言えば言いすぎでしょうか。

3.4 日本語訳のポイント

最後に日本語への訳出について触れておきましょう[15)]。ἡ ἄνθρωπος に対して拙訳では「人間（おんな）」という表記法を採用します。はじめは英訳やドイツ語訳などを参考に日本語の訳語を考えていたのですが、適切な語句がなかなか見つかりませんでした。考えあぐねたすえ三種類(ローマ字も含めると四種類）の文字を使い分ける日本語の表記上の特徴を利用してはどうかと考えました。文字（漢字）が意味、すなわち語り手の本質を、ルビ（ひらがな）が通称、すなわち語り手の属性を表すように訳してみました。この訳出方法は音読すると効果がなくなりますが、視覚的には ἡ ἄνθρωπος がもつ性の不一致という「文法的な現象」が、漢字の本来の読みと違う音がルビで表されるという「発音上のズレ」で表現できるのではないかと思います。

文字表記についてさらに次の三点を挙げておきましょう。

①冒頭の γυναίκα（引用部分の γυνή も同じ）は、「女／妻」と解釈し「女（つま）」を訳語にしました。これは **3.2** で検討したカレリの引用部分「箴言」を踏まえたうえでの選択です。ヴァン・ダイクの意訳は魅力的ですが、カレリは作品の中で「女／男」:「顔・光・言葉がない／顔・光・言葉を持つ」「月／太陽」「依りかかる／自ら立つ」といった対立が「神によって妻は夫と結婚する」ことから生じると描いているからです。筆者には「結婚」と「夫に対する妻の立場」はこの詩の重要なモチーフだと思えます。「私」が存在論的な自己を獲得するまでのある時点で「妻」という外的な立場が放棄されたと考え「女（つま）」と訳しました。
②ἐγώ と動詞 1 人称単数の主語の訳出について平仮名の「わたし」と漢字の「私」の両方を使いました。これも朗読では区別できないのですが視覚的に違いが読み取れるよう配慮しました。
③カレリの詩で語頭の文字が大文字で書かれる人称代名詞二人称単数形はキリスト教の「主」に対して用いられているもので、翻訳では字体を変えて**あなた**と表記しました。

4. 試訳

人間（おんな）

ゾイ・カレリ

わたしは　女（つま）　人間（おんな）
あなたの顔をいつも求めていました
男の顔をしていたものですから
判（わか）りようもありません

だれが　どれほど
独りを嘆くのですか
激しく　挫（くじ）けるほどに　独り
さあ　わたしですか　それともあの人ですか
在（あ）ると　在りつづけると信じていたわたしですが
あの人がいないと　いつわたしが在ったというのですか

しかしいま
どう踏んばるのです　どの光を受けて
わたしのこの苛立(いらだ)ちは何でしょう
ああ　二重の苦しみ
消え失せていくのです　わたしは
あなたが導いてくださらなければ

どうすればわたしの顔が見えるでしょうか
どうすればわたしの魂を受けとめられるでしょうか
蹠(もが)いても蹠(もが)いても
納(おさ)まりきらないわたし

__あなた__によって
妻は夫に娶(めと)られる

顔がない人の悲劇(かなしみ)は
まだなのですが　わたしには
いまもなお想像ができません
何が起こるのですか
解(わか)ってはいるのです
前よりもずっとよく
あなたがわたしを取り出さなかったことを
あの人のわき腹から[16)]

でもわたしは欠けるところのない人間だと言います
それに独りだと　あの人なしにわたしはいないのと同じでした
でもこうして私はいます　できるのです
私たちは分かたれた二人です　あの人には
そして私にも　自分の輝きがあります
かつてわたしは　月として
太陽には依(よ)りかからないと決めました
私にはわたしの矜持(きょうじ)があります
あの人のそれにも届き

乗り越えるほどのものが
博(ひろ)く学んだ今だからわかります
私はあの人に相対(あいたい)し
あの人に何ももらいたくないし
何かを望んだりしたくありません

私は泣きも歌いもしません
覚悟した裂目(きずぐち)は
いやおうなく　爛(ただ)れます
私は自分を通して世界を知るために
私は自分の言葉を語るために
ずっと私は在(あ)りました
敬(うやま)い尊(たっと)び愛(いと)おしむために

もうあの人のものでない
独りで在るべき私
私　人間(おんな)

注

1) 日本語に翻訳された現代ギリシャ文学は『プロピレア』誌上で「日本語による近代ギリシャ文学・語学文献目録」（１）～（８）(『プロピレア』３号、５～１１号）にその一部が紹介されています。
2) 沓掛良彦編『詩女神(ミューズ)の娘たち--女性詩人、十七の肖像--』(2000) 未知谷 佐藤担当：pp.267-285「メリサンシ」
3) 「フェミニスト詩」の評価については以下の文献が詳しく述べています。
Ekaterini Douka-Kabitoglou
“Beauty and the Beast: Re-membering the Woman/ Poet”*Women / Poetry in Britain and Greece*, (1998) Thessaloniki,University Studio Press
4) この作品はゾイ・カレリ『全詩集』*Ποιήματα Α', Β'*(1973, 1994^2) εκδ.ΤΩΝ ΦΙΛΩΝ に収められています。本稿の引用は、この詩集からおこなわれています。

5) 参考までに文法上の性の区別があるドイツ語訳を挙げておきます。
題名 *Die Mensch*、一行目:Ich bin eine Frau,bin die Mensch、 最後の行:ich, die Mensch。定冠詞女性形 die が男性名詞 Mensch に用いられているところは原詩と同じ手法です。
ドイツ語訳： https://www.fixpoetry.com/feuilleton/poiemata/zoe-karelli-gedichte

6) それぞれの翻訳の出典は次の通りです。
Kimon Friar *Modern Greek Poetry* (repr.1990) EFSTATHIADIS
Peter Constantinte, Rachel Hadas, Edmund Keely and Karen Van Dyck (eds.)*The Greek Poets:Homer to the present* (2009) W.W. Norton ＆Com.

7) 現代ギリシャ語の引用は、使用テキストのアクセントをそのまま転写します。

8) 英訳はどちらの題名も前置詞や定冠詞・不定冠詞が省かれています。これは題名ゆえの省略と見ていいでしょう。

9) この引用部分の「主」に対して用いられる代名詞二人称単数属格形の最初の文字は大文字ではなく小文字が用いられています。参照：本文 3.4③

10) 参照 :『聖書』日本聖書協会(1995) p.903 下線は筆者による。
「家と富とは先祖から受け継ぐもの、／賢い妻は主から賜るものである。」

11) Septuagint(LXX) *Proverbs* 19:14
「箴言」の παρὰ δὲ θεοῦ の部分はカレリの引用では δὲ が省略され *διὰ σοῦ* となっています。

12) 参考までに King James version *the PROVERBS* 19:14 を引用します。
House and riches are the inheritance of fathers: and a prudent wife is from the LORD.

13) 参照： 下線は筆者による。
「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。」

14) ὦς は誤植と見なされます。本来は ὦ。

15) この作品の日本語訳は筆者が調べた限りではまだ見つかっていません。

16) ここは「創世記」第 2 章 22 節「主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人の所へ連れてこられた」『聖書』日本聖書協会(1995) p.3 を連想させます。